

1 2 3 4 5 6 7 8

20

JAPAN

10

9

8

7

6

1 2 3 4 5 6 7 8



次鹿の浦より東へ逍遙の

九州長勝

四百七

東波磨浦より月の名前をとる所をえりて此に右せん場乃居
四方よりそへては源氏の毛もとあつたり也よす
やひ草先源氏敦盛タチマサがまのきせせにヤド紫内シナミ乃ノを
うすすいに方カタへり書シせゆ

○行幸月見松
月又の松といふと山も又墨の端まで來仰堂に
り奉ひて山の前が見えぬ不しきりをうけ
重たまひ一きぬうけ山川演ニ

○
煙 刷
松
さくらの木の根をひねりて

テの浦や港、まことに松あえい浪のうる月ぞよし

後
記

○松風村雨後の井 ぬ井畠村より

○村雨堂

西次ア東の入はるゝひゞりの小屋と云ふ之
の女山ナシのうへりての風景といひて其年余
至シ一都も村のぬきそむの風景といひれども此處
あれやうて村のぬきそむの形をうせせらう

○長田社

健本さくわがーとの墓所ナシ前田氏の墓内ナラ
祭神夏代主命ナラ龜井八月十七日ナラ

○諏訪社

浜をの森より春日吉備八日之村民熟肉と食する
古式あり長田神と山神ハ波ナのうへた昔より
の靈社にて長田の神ハ漁とあり山神ハ山神とちう事
此二神ハ山神のちう神くげ社と世不外神の諏訪とも云

○天神社

日一束の内とお縁翁天神も又一束白髮乃天神
波子記とくまの妻

ノリキモ島の浦ヨリセキヒト浦人らあつとまであれ
きひ又白繫とくまの不いりきは様とがく波風のうじうら
玉一走エカク北向キセナリトテ其時この里の不友不構ま祐
あへ人のゆふやうにうづくを愛相公の御事こそ金くあひ
波子記とくまの妻

○重櫛松

モモツの木ゆきよあひ色叶ひてかたのうへ成す
すの附松の根よ体ナセナリトテノリ一松一株

あり其時里人れあへうとて獨角と云けられハ重櫛

ノリキモや浪くもと成すとぞそのじ社獨角

○湧石簾

平家一翁の城廓早とよしやと安達玉三宿
の危るところの人々人等のあまれ合ひてせ
たまし殊薦とくにうへ例と今もあぐれどこれと

かうだ

○光源院の跡 まをうたようす源光も境内なり

○若木ノ様 次テもふあうほテの走る日はれくらこと極し
あ木の様日のみほとてその事一だくらか
きへうち河のうねや一中れく

○須大闇 ちきり河の左の基なり
圓路高がよそをまわひままで社林をぬるの裏手 通出
橋人の後深いなづく圓吹こある波テのうし風 行年

圓吹あ吹テの圓吹の持枕蓋まで底を流れまく前 未解

○須大闇 ちきり河の左の基なり

圓路高がよそをまわひままで社林をぬるの裏手 通出
橋人の後深いなづく圓吹こある波テのうし風 行年

圓吹あ吹テの圓吹の持枕蓋まで底を流れまく前 未解

○須磨寺

よせ山福祥ちとて門第や地うつたハス光源院
笠鏡大仁和二年の建主敷室の遺物玉織の扇
高麗筆すと字物言ひ附すも縁記ニテ

○源家種猿うけ松 永慶う瑠璃度庭よなり

○薬師堂

新改ひ建立正月八日又鬼やくみ

○瑞翁社

歌る己の日おもて一せよせあふ

八百万神もなまむと思ふんねうむのとれとみけ
ひとときうへつけ所之今へ拵備とあふも

○村上天王社

ひと天敵本店也とて人多見詫びのまくとて廣瀬
やまとあつうひ法上の見色とくとく浦まで

弓木村と天宝梨臺の守が又遇油生の姿とれどもうちて其
附跡子丸青山をとて花色絶えうそけにへば新やう

○こりうに 今ん間地とむらちりう川のをよ

弓木村ひまくまほまのきりとくひじうを

○次弓のよ連 山とみよとく海と御とすくよ

弓木村ひまくまのよ連ふたね南と接夜ぐ 滋濃屋

きは仰雲法師とくしん房を志えて住せり

○安住庵内裏

一、古二ノ若の宮より北墓にさ四方をとて本不流り
平家の一门壽永の秋の崩ゆきとられて本の家も安
やむの終とらしく本院をセウヒは次テの浦小先をく室居となす
木子源氏の大ねうへ付ひよもくこのやんぢよと龜山十人を冊坐

四の弓

弓尾二筋とねくとねくせんア箭のよてうが筆ふすまぢやう
つ病はくく城下しるきこく一本と叩きそと底へくる連夜へく
ア若のゆく岩云島とくテ若のゆく

○狹楊ヶ峯

内裏やきのよのまかう甚よ小築うけねの
古ああうひよくとくとくよの山つまう

○神体峯

西の弓山く神功皇后玉ふ退治の靈廟の神と
は山ア体うづくより神体う峯もく

○古添塚

二の若と二の若よの弓ふ但馬守つゆまき城の尼よ
ふうれうふあすき

○敦登名塔

二月七日彦坂の附はあくと慈云ふ付きの人生
年十六すなう岐石塔いよま人のゑあもあせば一徳
の内ふ遠

○泉井 石塔の上に墓がある

○熊谷平山 三のうナと新ひぐ揚州塙尾村のまゝある
生田川を大手と西垣底と欄として三里塙と城と西の氣よりはアマテの左様に改まり
る。多摩名ふ記とくらみをきりけをと見へばすめの備ひ
多摩の傍をくわ城をつくる人である記——物

延享三寅年正月閏板

接州須磨浦一、谷角

産龜堂藏板

嘉永二酉年三月再版